

森林官がらののおたより

山梨森林管理事務所 甲府森林事務所

森林官 勝又 好徳

私の勤務する甲府森林事務所は、山梨県の中央部に位置する甲府市に1,178ヶ所、隣接する山梨市に71ヶ所、県の東部に位置する富士吉田市に16ヶ所、計1,265ヶ所の国有林と官行造林726ヶ所を管理しています。

甲府市にある国有林は市街地に近く、地域の方々から「裏山」と呼ばれ親しまれています。甲府盆地の降水量が少ない気候から、乾燥し痩せた土壌が多いためアカマツを主体にした林分となっており、松くい虫による被害が毎年多く発生し、地域の要望もあつてマツ枯れの対策に迫られている状況です。

「裏山」には史跡に指定されている「要害山」があり、山全体が「要害山」という山城となっています。要害山は1,520年に武田信虎が築いたもので、居館と政庁を兼ねた躑躅ヶ崎(つつじがさき)館(史跡では武田氏館、現在の武田神社)に對して、緊急時に立てこもる詰城としての役割を担っていました。信玄・信玄・勝頼と三代にわたって使用され、武田氏滅亡後は甲斐を領有した

者が手を加えて利用していた様ですが、新城の甲府城(通称・舞鶴城)が完成し廃城となりました。今でも山頂に至る道の要所要所には門跡の石積みが見られ、戦国の雄武田氏の城郭が偲ばれます。また、甲府市内の小中学校の学校林(部分林)が3箇所あり、それぞれ

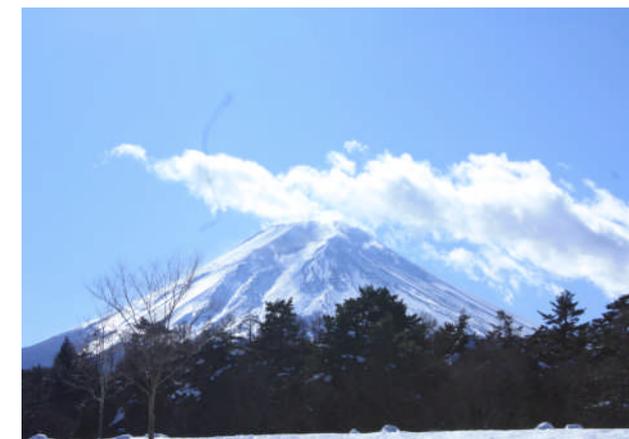


要害山(要害温泉の躑躅と要害山)

れの学校林の周囲に遊々の森を設定し、山梨県や甲府市、民間ボランティアの協力を得ながら学校が進める森林環境教育に協力しています。富士吉田市にある諏訪森(すわのもり)国有林には江戸後期から続く樹齢250年以上のアカマツ林が立ち並び、一部は特別名勝富士山(吉田口登山道、古道としては唯一、徒歩でふもとから富士山の頂上まで利用できる登山道)に指定されています。昭和59年度に隣接していた旧苗畑を市へ売却し、現在は公園(富士パインズパーク)として整備され、駐車場から雄大な富士山が眺められます。冬には芝生広場が一面の雪景色となり、ソリで遊ぶ子供達の姿が見られるそうで、市民の憩いの場所



北中学校へ感謝状を送呈



諏訪森アカマツ林を通し富士山を望む

として活用されています。近年山梨県では山火事が多く、昨年末に民地で20数ヶ所以上延焼したことや、4月には国有林から200ヶ所程しか離れていない民地の竹林が燃えるなど、林野火災が心配される土地柄です。また、国有林内の県市道路沿いには大量の空き缶や生活ゴミ、廃タイヤ等が捨てられておりましたが、毎年実施しているグリーンアンドクリーン作戦を5月に実施し、山梨県と甲府市にもご協力を頂いて片付ける事が出来ました。森林官に着任し2箇月が過ぎたばかりですが、今後も開かれた国有林として、地域の要望に応えられるように頑張りたいと考えています。